



皇 學 館

学園報 第61号

発行・編集 / 学校法人皇學館 企画部
TEL: 0596-22-6496・8600

●大 学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL: 0596-22-0201 (代表) FAX: 0596-27-1704

●高等学校・中学校 三重県伊勢市楠町138
[高 校] 〒516-8577 TEL: 0596-22-0205 (代表)
[中 学] 〒516-8588 TEL: 0596-23-1398 (代表)

注目記事

- 2面 卒業生随想
- 3面 高・中で卒業式サミットに向け準備着々
- 4面 教育学科創設40周年記念座談会を開催
- 5面 CLL活動レポート 7団体が一年の成果を発表
- 6面 (高校・中学校) 建国記念の日の講演「国の始まり、言葉の始まり」
- 7面 皇學館中学校生25名がカナダ・バンクーバーへ語学留学
- 8面 教育学部・卒業記念ミュージカルを開催
- 連載 7面 卒業生奮闘中! 八尾吉宣氏 (沢井病院 地域医療連携室室長)
- Kらいふ(全学一体 第162号) 退任によせて ほか



総代6名が緊張の面持ちで清水学長から学位記・修了証書を受け取った



大宮司賞などの受賞者10名

創立百三十周年・再興五十周年の年に入学

春の訪れを感じる柔らかな日差しの中、平成二十七年学位記・修了証書授与式が挙行された。この日、旅立ちのときを迎えた六八〇名の卒業生

らほは早朝に外宮・内宮を正式参拝。内宮では御垣内での参拝を許され、卒業を迎えた喜びを大御神に奉告した。

午前十一時半に始まった授与式では、国歌斉唱、令旨奉読に続き、博士前期・修士課程修了者、神道学専攻科修了者、三学部卒業者の代表六名が登壇し、誇らしげな表情で学位記・修了証書を受け取った。続いて恩賜奨学賞、大宮司賞などの受賞者十名に賞状と記念品が手渡された。

平成二十七年度の学位記・修了証書授与式が三月十八日、記念講堂において厳かに執り行われた。この日、新たな門出を迎えたのは、三学部合計六八六名、神道学専攻科二十六名、大学院八名の計六八〇名。それぞれが倉田山で過ごした思い出と、未来への志を胸に旅立った。

平成二十七年 学位記・修了証書授与式

六八〇名が希望を胸に社会へ



式辞を述べる清水学長

式辞を述べる清水学長

この時代の五十年、新たな時代の第一期生として迎えた学生である」と、キャンパスが整備拡充され、三学部六学科からなる新体制のもとで教育研究の活性化が図られた年だったことを振り返った。また翌年に第六十二回神宮式年遷宮が行われるなど、日本の精神伝統の核心に触れる好機に遭遇できたことにも言及。専門領域の学問はもとより、その根底を培う人として

平成27年度 学位記・修了証書授与式 受賞者等一覧

総 代	博士前期課程 文学研究科国史学専攻	宗 林 孝 拓
	修士課程 教育学研究科教育学専攻	堤 貴 之
	神道学専攻科	杉 原 淳 一
	文学部コミュニケーション学科	中 西 由 美
	教育学部教育学科	杉 本 紗 希
恩賜奨学賞	文学部コミュニケーション学科	藤 岡 史 奈
	文学部神道学科	橋 本 昌 幸
大 宮 司 賞	教育学部教育学科	芝 山 智 葉
	現代日本社会学部現代日本社会学科	濱 井 沙 月
理 事 長 賞	文学部国文学科	古 味 夏 実
学 長 賞	文学部国史学科	和 南 綾 花
統 理 賞	神道学専攻科	日 野 新 太 郎
	文学部神道学科	白 鳳 真 子
長谷奨学賞	文学部神道学科	山 田 怜 央 奈
	文学部国史学科	竹 林 史 織
送 辞	教育学部教育学科 3 年	浮 田 紗 希
答 辞	教育学部教育学科	平 野 幾 也

社会福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰	
現代日本社会学部現代日本社会学科	山 川 知 里
精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰	
現代日本社会学部現代日本社会学科	出 口 雅 恵
保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰	
教育学部教育学科	芝 山 智 葉



芝山さん(教育)



藤岡さん(コミュ)



山田君(神道)



羽田さん(現日)

ない」と語り、「いかなる職業に就こうとも、その職場になくはならない人、職域の宝に、地域社会の宝になつていただきたい」とはなむけの言葉を贈った。

在学生の送辞に続き、卒業生を代表して教育学科の平野幾也君が「神宮

参拝や初穂曳などで学ぶことのできた礼儀・作法はこれからの人生の貴重な財産となった。これから進む道で壁にぶつかったとしても大学で学んだことを糧に乗り越え、建学の精神」を胸に日々精進していきたい」と語った。

発見でき、絆も深まったと語った。また津市で保育士として勤務する教育学科の芝山智葉さんは「ゼミでは生物学を専攻した。現代の子どもの理科離れが進んでいるといわれる。学んだ知識や経験を活かして、幼い頃から自然や生物への関心を育んでいきたい」と語った。三重電子計算センターに就職する現代日本社会学科の羽田明莉さんは「三重県庁にインターン生として行かせていただいたことがとても良い経験になった。日本を動かせる人になりたい」と意欲を見せた。また熊本県の阿蘇神社へ奉職する神道学科の山田怜央奈君は「四年間神道について学んだが、即戦力としてはまだまだ通用しない。奉職する自覚をもって、現場で動き回りながら修行を積んでいきたい」と抱負を語った。

倉 田 山 春 秋

卒業式に国旗を掲げ、登壇者が一礼する。皇學館にとつては当たり前のことだし、その意味もきちんと理解されているからその一礼には清々しさを感じる▼しかし、世の中にはいろいろな見方があるらしい。国というものが存在してこそ立場を得られるはずの組織が式上国旗を掲げたからというのでニュースになるとは何とも珍妙なことがある▼もっとも、やみくもに礼をすればよいというものでもない。以前、演台の後ろに国旗が掲げられていないにも関わらず、登壇者が何もない壁に向かって一礼するのを見たことがある。このときは、とても残念な気持ちになった。国旗があるから一礼するのだ▼最近選挙結果の報道の様子を見ても「〇〇君バンザイ」の声に合わせて、当選者が支援者と一緒になって万歳をしている。もちろん万歳は御上に対してのものだから、そもそも間違っているのだが、そこを百歩譲るとしても、これまた残念な気がする。自分の為にみんなが万歳をしてくれたら頭を垂れるのが常識だろう▼神様をお参りするとはなく本質と意味を理解しておきたいものだ。

卒業生随想

春からそれぞれの志す道を歩き始める卒業生たち。学生生活を振り返り、彼らの胸中に去来するさまざまな思いを語ってもらった。

お伊勢さんに抱かれて

神道学科 橋本 昌幸

就職先 秋葉山本宮秋葉神社



お伊勢さんのすぐ近くで神道を学べる場所、私が皇學館大学への進学を決めた大きな理由だ。神宮と共に歩んできた伊勢に建てられ、神宮と縁の深いこの学び舎に私は魅力を抱いた。

神職をめざすためとはいえ、郷里から遠く離れたの一人暮らしは大変心

る講義が多くあり、夢中で学んだ。所属したゼミはとても賑やかで、卒業論文も和気あいあいと作成した。我が家に友人が

皇學館で学んだことを次の世代に

国文学科 辻村 貴一

就職先 神奈川県公立中学校教諭



入学して最初に驚いたのは自分の机がないことだった。これまでは決められた席で与えられた学習に励むものだった。しかし大学では、選択する

遊びに来るなど笑顔が絶えなかった。

こうして穏やかに大学生活を送れたのも、神宮の存在あってこそだと確信している。今春、私は神社界へ羽ばたく。神社が氏子崇敬者にとつての心の拠り所、安らげる場所であるように、一職員として邁進する所存です。

道徳心や伝統、日本人としての誇りを育みながら学びを深める環境だからこそ、教員になる夢に向かって、自信をもって力をつけることができた。

仲間との存在も大きかった。互いに助け合い、時には議論を重ねながら共に前へ進むことができた。教職以外の業種をめざす仲間との触れ合いは自身の間口を広げること

に繋がった。四月から教員となり、また新たな一歩を踏み出す。この大学で学んだ和の心」と国文学に関する知識を活かした魅力ある授業ができるよう自己研鑽していきたい。

皇學館大学で学べたことに感謝し、次の世代に継いでいきたい。

四年間の記憶を胸に、前を向いて頑張っていく

国史学科 千葉 響呂加

就職先 株式会社京東丸



卒業を控え、引越しの荷造りをしていると、皇學館大学の合格通知書が棚からひょっこり顔を出し、私の胸中には、四年間のさまざまな記憶が走り灯籠のように巡った。

中でも三年生から始まったゼミは、一際明るく灯った。私は、岡田先生

の古代史ゼミに所属しており、ゼミでは『日本書紀』の内容を理解するだけでなく、問題点を見つけ、史料を使って自分なりの答えを導き出し

感謝の一年

神道学専攻科 日野 新太郎

就職先 志呂神社



「ありがとうございます」そんな感謝の気持ちでいっぱい。

私が神道学専攻科に入学したのは、受け継がれてきた使命と伝統を守るためである。伊勢での学びを重ねるうち、自分が

「ありがとう」といって、神道学専攻科に入学したのは、受け継がれてきた使命と伝統を守るためである。伊勢での学びを重ねるうち、自分が

でお世話になった。私をはじめ、ゼミ生は各々個性が強く、岡田先生の手を煩わせてしまうこともあった。しかしその都度、岡田先生の言葉や行動に

感謝の気持ちを忘れず、日々精進

コミュニケーション学科 藤岡 史奈

就職先 株式会社三重銀行



四年間を振り返ると何

事にも全力で取り組み、充実した日々であった。こうした貴重な体験を何度もさせていただき、ご指導してくださった岡田先生には最大の謝辞を。入学前から、模擬講

義や課題のレポート、そして入学後も講義やゼミ、卒論など、多くの面

叱咤激励され、頑張ることができた。

社会人となることに不安もあるが、温かな四年間の記憶を胸に、前を向いて頑張ろうと思う。

はいかに知識を吸収できるかを意識して取り組み、また、アルバイトとの両立など、時間の有効的な使い方を学んだ。

就職活動では、勉学に取り込む姿勢が活かされた。挨拶をする、ルールを守る、時間を守る、忘れ物をしないなど、当然

のことが社会人としてどれほど大切であるか、改めて学んだ。辛い思いをしたこともあったが、自

分の軸を忘れず素直でいることが、納得のいく就職活動になることを後輩たちに伝えたい。

このように、私が大学生活を充実したものでできたのは、周りの方々の支えのおかげである。四年間、大学に通わせてもらった両親には感謝の気持ちでいっぱいである。また、ゼミの教授や仲間には、感謝してもしきれない。卒業論文や就職活動を乗り越えることができたのは、いつも味方になってくれた教授、目標に向かって切磋琢磨した仲間、職員の方々のおかげである。

社会人となっても、常に感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきたい。

さや大切さを学ぶことができた。また、学外活動では、地域の方々と運動をしながら、いろいろな話をして触れ合う中で、子どもたちのスポーツ大会などでは、その補助活動の中で、人との繋がりの大切さを改めて感じる

ことができた。

私が今、こうして修了という舞台に立てたのは、家族や友人、大学の先生方、先輩や後輩たちと

関わってきた人たちの支えが、この大学で学んだことを活かして精進していきたいと思う。

笑顔に囲まれ、笑顔になれた四年間

教育学科 池内 優

就職先 株式会社タートル



高校生の頃、「大学生」は自分よりもずっと大人で、キラキラしていると

思っていた。皇學館大学に入学する春、ついにその仲間入りだとワクワクしたのを覚えている。

入学後すぐに、よさこい部「雅」に所属し、大好きなよさこいを続けた。費用もたくさんかかったが、お金には代えられない思い出や人とのつながりが三年分もできた。雅のみんなと踊ることが本当に楽しかった。

講義や実習、ボランティア、さらにはアルバイトを通して、子どもを育てることの責任や重要性を学び、子どもの愛くるしさや、子どもと関わる仕事に就きたいという気持ち

自分の殻を打ち破ることができた

現代日本社会学科 岡 剛史

就職先 桑名信用金庫



四年間で最も印象深いことは「大学生テレビ局」の活動である。一期生として局長と番組ディレクターを担い、卒業までにドキュメンタリー番組四本、対談番組一本を制作し、これらはケーブルテ

レビで放送後、YouTubeにもアップロードした。この活動では企画、交渉、取材、編集といった工程があり、そのなかで「責任感」「コミュニケーション力」「自己表現力」を身につけることができた。地域の魅力を発信することはもちろん、取材を通じて多くの方々と出会えたことが私にとって

であり、その人の笑顔を写真に残す仕事に就けることを誇りに思う。日々笑顔を絶やさずに、春から社会人として頑張っていきたい。

誰かが誰かの大切な人

大きな財産になった。単に「番組制作をした」だけではなく「番組制作を通じて自分の殻を打ち破ることができた」ということがひとつの成果であったと感じる。こういった経験は、就職活動のみならず、「リーダーシップ」をテーマにした卒業論文の作成においても活かすことができた。あらためてこの活動に関わってくれたすべての方に感謝したい。

今後は社会人として自分をマネジメントすることとはもちろん、地元金融機関の職員として地域全体を支え、ものや人々の魅力を引き出すことができる人材になれるよう、努力していく。

大学で学んだことは、決して易しいことばかり

大学で学んだことは、決して易しいことばかり

サミットに向け 準備着々



英語表記による解説が追加された

多言語表記化事業を推進

伊勢志摩サミットを機に海外からの来訪者が増える想定し、本学では英語と中国語(一部)に対応した案内板や各種パンフレットの作成を進めている。

多言語表記化が決定したのは次の媒体。

- ①要覧ダイジェスト
- ②学園案内図
- ③六角講堂看板
- ④記念館説明看板
- ⑤校舎の表記
- ⑥大学施設平面図
- ⑦記念館日月庵関係
- ⑧博物館展示表記
- ⑨博物館案内ピーコン
- ⑩博物館フロア

五月二十六日、二十七日の伊勢志摩サミット(先進国首脳会議開催にあわせ、おもてなし力)向上に向けた種々の取組みが行われている。

外務省職員による サミット塾開催

伊勢志摩サミットを前に、サミットや外務省の仕事への理解を深めてもらおうと二月四日、皇學館高校・中学校でそれぞれ「イチからわかる!サミット塾」が行われた。

講師は外務省南部アジア部南東アジア第二課に所属する鈴木孝弘さん。今回のサミットの開催準備にも携わった鈴木さんはサミットの歴史や概要を紹介。伊勢志摩が開催地に選ばれた理由について「豊かな自然や文化、伝統があるため」と話した。質疑応答の時間では

案内図 ⑪「遷宮浪漫」
このうち、「遷宮浪漫」はすでに英語版が発刊されている。



熱心に語る鈴木さん



中川未友紀さん

「外務省に入るにはどうしたらよいのか」「経済効果はどのくらいあるのか」「高校生としてサミットに向け何ができるのか」など活発な質疑応答があり、鈴木さんは「サミットを機に世界で何が起きているか知ることが大切。世界に関心を持ち、問題意識を持って勉強してほしい」と呼びかけた。

ジュニア・サミット参加者を 神宮に案内

ナガシマリゾットをメイン会場に、伊勢志摩サミット関連公式行事として四月二十二日から二十八日にかけて行われる「2016年ジュニア・サミットin三重」の参加者を伊勢神宮等へ案内するボランティアに皇學館高校二年の中川未友紀さんが選ばれた。

自身の語学力を活かして伊勢の魅力や積極的にアピールしていきたいと話す中川さん。参加にあたっては「まず自分自身」が選ばれた。

英語・韓国語を活かし、 通訳に挑戦

コミュニケーション学科二年の谷川綾香さんが伊勢志摩サミットの通訳ボランティアに見事採用された。

応募したのは昨年十二月。語学力を活かし、困っている人を助けたいと申し込んだ。韓国語は日常会話、英語は英検二級の腕前。二月二十日に実施されたボランティア研

修ではプロの通訳者を講師に語学力アップの研修が行われたそうで、「通訳となると日常会話と違い、フォーマルな表現、丁寧な言い方が求められることが多かった」とハイレベルな内容に少しとまどいを感じた様子。それでも、これほど貴重な体験はないと話し、「伊勢志摩サミットは外国の方に伊勢や神宮のことを知ってもらおう絶好の機会。大学で学んだことを念頭にしっかりと役目を果たしたい」と抱負を語っていた。



神様に感謝の気持ちを奉告



答辞を読み上げる荒木さん

入学以来、私どもはそれぞれの目標を達成するため、日々精進してまいりました。それぞれにめ

自分に負けず最後まで努力を

答辞(抜粋)

卒業生総代 荒木 美来

祭典から始まった皇高祭。クラス展示では一から企画し準備することの難しさを痛感しました。北方領土望見という貴重な体験をすることができた修学旅行。どこまでも続く広大な風景に圧倒されました。そして、心を一つに臨んだ体育大会。太陽の光あふれる中、クラスの勝利に向け、声がかかるほど声援を送り、覚悟です。

祭典から始まった皇高祭。クラス展示では一から企画し準備することの難しさを痛感しました。北方領土望見という貴重な体験をすることができた修学旅行。どこまでも続く広大な風景に圧倒されました。そして、心を一つに臨んだ体育大会。太陽の光あふれる中、クラスの勝利に向け、声がかかるほど声援を送り、覚悟です。



中村学校長の話にじっと耳を傾ける卒業生

「人間には得意なこと、苦手なことがある。得意なことをもっと良いものに磨いておく、不得意なものにはあきらめず、少しでも得意なものにしていく、それが努力する姿勢こそが貴重であり、それが、個人を輝かせる」と努力の大切さを説き、生徒へのはなむけの言葉とした。

雨があるからこそ花は咲く

答辞(抜粋)

卒業生代表 松田 ひな子

私が好きな言葉にこういうものがあります。晴れの日はかりではなかった。けれど雨の日があったからこそ小さな感情の種は芽吹き、新しい関係の花を咲かせることができるのだ、と。

あのときに出逢った私たちは偶然でも神様の気がついていると思うと誇らしく思います。

私たちは、晴れの日も雨の日も見守ってください。先生方のおかげでここまで来られました。そして私たちのことを生み出した時からずっと見守ってくれているお父さん、お母さん。忙しい中いつもお弁当を作ってくれたり、送り迎えをしてくれたり、そしてここまで育ててくれてありがとうございます。そして後輩たち。私たちはあなたたちのお手本となれたでしょうか。皆さんになら私たちは安心して後を任せられます。

高校生への一步を踏み出す準備は万端です。今までお世話になった方々が用意してくださった船に乗り、私たちで作り上げた順風に乗って四十六人のオールを揃え、これからの生活を進めていくことをお誓いし、答辞の言葉といたします。

それぞれの形で美しい人生の軌跡を

第五十一回 皇學館高校卒業式

小雪の舞う三月一日、第五十一回皇學館高等学校の卒業式が執り行われた。今年度末をもって退任される中村貴史学校長は卒業生三五四名の前に

業証書授与、賞状授与に続き式辞を述べた。その中で中村学校長は「人生は彩ある反映のうちにあり」との言葉を紹介。「人間の一生は、それぞれ違った色彩を持つ他人との

ちと対話を続ける中で活動的な生活を送っていくことが、君たちの人生に美しさと豊かさを保証する」と語り、多彩な出会いが人生に潤いをもたらすこと、そして、それぞれの形で美しい人生の軌跡を描いていってほしいとエールを送った。

今年、私どもは十八歳として初めての選挙権を得、いよいよ夏の参院選で投票することとなります。これからは社会を担う一員としての自覚を持ち、責任ある言動をとらなければなりません。変化の激しい時代であり、今後どのような社会になるのか、不透明です。しかし、時代が変化し続けたとしても、普遍的な精神があります。それは、建学の精神です。いつも「清明正直」、日本人としての誇りを持つて、社会を支える人材となるべく、精進していく覚悟です。

恥ずかしくない自分であれ

第三十五回 皇學館中学校卒業式

三月十九日、セミナーホールにおいて皇學館中学校の卒業式が厳粛に挙行された。

卒業証書の授与、特別優等賞、三カ年皆勤賞の賞状授与に続く式辞で中村貴史学校長は自身が師

から受けた教えを引用し、「人間として大切なものは名を惜しむ」ということ。つねに恥ずかしくない自分であり、そのための工夫を忘れないことです。これは簡単なようで、じつは大変に難しい。

その努力する姿勢こそが貴重であり、それが、個人を輝かせる」と努力の大切さを説き、生徒へのはなむけの言葉とした。

雨の日も見守ってください。先生方のおかげでここまで来られました。そして私たちのことを生み出した時からずっと見守ってくれているお父さん、お母さん。忙しい中いつもお弁当を作ってくれたり、送り迎えをしてくれたり、そしてここまで育ててくれてありがとうございます。そして後輩たち。私たちはあなたたちのお手本となれたでしょうか。皆さんになら私たちは安心して後を任せられます。

教育学科創設40周年 記念座談会を開催



掛本勲夫先生 萩吉康先生 宗林正人先生 森下千瑞先生 西山嘉代子先生 深草正博先生

教育学科創設四十周年を記念して、二月六日、本学六号館六二教室において設立当時の先生方による座談会が開催された。教育学科の黎明期を支えた先生方は創設から現在に至るまでの歩みを振り返りつつ、当時のエピソードや思い出、これからの教育学部に望むことなどを語り合った。

先人諸賢の献身的な尽力あつてこそ

「真に日本にふさわしい教育を行い国民の信頼に応える誠意と勇気ある教師を世に送り出そう」との決意のもと、昭和五十年（一九七五）、皇學館短期大学を発展解消する形で生まれた教育学科。以来、変遷する時代の中で、「国家有用の人材を輩出する」との一貫した志を持ち、教育界に約五千二百名を輩出（大学全体）。

県内における最も優れた教員養成校としての地位を確立するなど大きな飛躍を遂げた。

二月六日に行われた「教育学科創設四十周年記念座談会」では設立に関わった宗林正人先生をはじめ、森下千瑞先生、西山嘉代子先生、萩吉康先生、掛本勲夫先生、深草正博先生と、教育学科学部の発展を支えてこ

れた教授陣が一堂に会し、当時の思いやエピソードを語り合った。

宗林先生は御年九十歳。教育史研究者として名高い結城陸郎先生をはじめ創設に尽力した先生方をご紹介しながら「何においても最初に創るのは難しいが、ファイトのある人がリードしてくださったおかげで設立にこぎ着けることができた」と当時を振り返った。森下先生は段ボールでハードルを作ったエピソードに触れ「何もなかったけど苦労と思ったことはなく、自分たちで工夫し、考える楽しさがあった」と懐かしそうに話された。

萩先生は実習先の確保に奔走したこと、西山先生は教え子との心温まる交流、初代学部長を務めた

掛本先生は幼保一元化の動きの中で学生の保育士資格取得に向け環境を整えるべく奮闘した日々を振り返った。深草先生は、学舎が取り壊されたりして時が経つと何でもすぐに忘れ去られてしまう風潮を寂しく思うと心情を吐露。各学科の象徴として植えられた五本の桜の木に触れ、ぜひ自分の



多くの卒業生が駆け付け、満員となった会場

先生方の教えを今も胸に

座談会後に深草先生の退任記念講演「教育とマジック」が行われることになり、会場には深草先生の教え子が多くみられた。その一人、愛知県の特別支援学校に勤務する河合英明さんは「先生の授業は緊張感があり、背筋が伸びた」と振り返り、「異文化理解など教えて

いただいたことを胸に、日々、教壇に立っている」と感謝の思いを口にした。千葉県から駆け付けたという安部香織さんは「深草先生は学ぶ楽しさを教えてくださった先生。授業が楽しく、あつという間に過ぎたことを覚えている」と明かし、座談会については「実習など授

本学学生が小中高生を英語でサポート

県教委主催「三重県英語キャンプ」

昨年十二月二十五日から二十七日にかけて、鈴鹿青少年センターにおいて三重県教育委員会主催の「三重県英語キャンプ」が県内の小・中・高校生を対象に実施され、本学学生六名がボランティアでキャンプの手伝いをした。同キャンプは英語コミュニケーション能力の向上を目的に行われたも



中学生を前に英語で自己紹介

ので、アメリカ・イギリス・フィリピンなどから来たA.L.Tも参加。自己紹介や三重県についての発表やゲーム、歌、レゴを使った活動などすべて英語で行われた。本学の学生のうち二名は小学生を、三名は中学生を、一名は高校生を英語でサポート。参加したコミュニケーション学科二年の岡根義樹君は「英語でしっかりコミュニケーションがとれた時の皆

の笑顔が印象的でした。より上手くコミュニケーションが図れるよう、これからも英語の勉強を続けたい」と感想を述べた。キャンプに参加した小・中・高校生はもちろん、本学学生にとっても、楽しみながら実践的な英語力を身に付ける貴重な機会となったようだ。

文学部准教授 川村一代



慎重に史料を整理する学生たち

みえむ MieMuで 古文書整理体験

―来航の際に出された御触書を整理したことで「教科書でしか知らなかった歴史的な出来事がより身近に感じられた」と話した。同じく国史学科二年の服部大輝君は「史料の紙に黒髪が混じっていて、当時の人が紙を漉いている様子が目に浮かぶようだった」と興奮気味に語り、「知れば知るほど、新しい疑問が湧いてくる。今回参加したことで圧倒的な力不足を感じたので、次はもっと力を付けて、また参加したい」と意欲を語った。



くずし字の判読に奮闘

受講対象の方は平成29年及び30年3月31日に修了確認期限を迎える現職教員等の方です。

受付期間	第一次	6月1日(水)16時～4日(土)12時まで(予定)
	第二次	6月8日(水)16時～10日(金)15時まで(予定)

受講対象者	平成29年・30年 3月31日現在の年齢	生年月日
	満35・34歳	昭和56年4月2日～昭和58年4月1日
	満45・44歳	昭和46年4月2日～昭和48年4月1日
	満55・54歳	昭和36年4月2日～昭和38年4月1日

会場と開講スケジュール

必修領域6時間及び選択必修領域6時間は全教員、選択領域18時間は養護教員・栄養教員を除く全教員の方が対象です。

伊勢会場		皇學館大学		四日市会場		じばさん三重	
時間●8:55～16:20							
	伊勢	四日市	講習内容				
必修領域	8/18(木)	8/19(金)	国の教育施策や世界の教育の動向・教員としての子ども観、教育観等についての省察・子どもの変化についての理解 講師●市田敏之、渡邊賢二				
選択必修領域	8/19(金)	8/20(土)	《コース別講習》 講師●新田均、大藪康雄、松藤司、近田芳久、中西哲彦(日本福祉大学准教授)				
選択領域	8/20(土)	8/21(日)	道徳教育 講師●石井昌浩(教育評論家・元国立市教育長)、渡邊毅				
	8/21(日)	8/22(月)	《コース別講習》 ※伊勢会場と四日市会場で講師が異なります。詳しくはホームページにてご確認ください。				
	8/22(月)	8/23(火)	伝統と文化の理解 講師●岩崎正彌				

講習の内容・お申込み方法などの詳細は本学HPをご参照ください。

<http://www.kogakkan-u.ac.jp>

教員免許状更新講習のご案内
今年も2会場で開催します

問合せ先 学生支援部教職支援担当
TEL 05966・222・6049
FAX 05966・211・0541
E-mail kyoosoku@kogakkan-u.ac.jp



さいくう平安の杜の復元された建物を見学する参加者

平安時代の齋宮を体感できるよう、三重県が正殿など三棟の建物を復元し整備した史跡公園「さいくう平安の杜」。その完成を記念し、本学と三重大学が合同シンポジウム「桓武天皇と齋宮」を三月二十日、明和町・齋宮歴史博物館にて開催した。

文献史学と考古学から齋宮を考察

第三回 皇學館大学・三重大学合同シンポジウム

当日は約百十名の参加者を前に本学研究開発推進センターの荊木美行副センター長が「文献史学から見た齋宮」、三重大学人文学部の小沢毅教授が「考古学から見た齋宮」と題し、それぞれ講演。続くシンポジウムには齋宮歴史博物館の榎村寛之学芸普及課長が加わり、三人による活発なディスカッションが行われた。南伊勢町から参加した国史学科三年の山本翔麻君は「異なる二つの視点からアプローチしており、とても興味深かった」と話し、各専門家による多角的な見方、考察に刺激を受けた様子だった。

仕事の現場を疑似体験することで実際に働くイメージや社会人としてのマナー、スキルを身に付けてもらおうと、二月十九日、二十六日の両日、「学内1DAYインターンシップ」が開催された。この催しは平成二十七年に採択された三重県高等教育機関魅力向上支援補助金事業「みえ出会いスイッチプログラム」の一環。二月十九日の「営業編」には三年生四十一名、同月二十六日の「人事

疑似体験を通して仕事への理解深める

学内1DAYインターンシップを実施



電話でアポイント体験

「学内1DAYインターンシップ」には三年生三十五名が参加した。両日とも、学生はまずテレフォンアポイントメントや名刺交換など基本的なビジネスの場面を学生同士でロールプレイング。その後、商品シートの作成や企画プレゼンテーションな

ど、各職種における典型的な仕事に取組み、現場の雰囲気を感じた。〈営業編〉に参加した学生からは「先入観が払拭され、説明会などにも積極的に行くと思った」「とてもストレスの多い仕事というイメージを持っていたが、その分やりがいも大きいと感じた」といった声が聞かれ、〈事務編〉の学生からは「事務デスクワークではないことがわかった」「事務に対するイメージが大きく変わった。今回の体験をもとに、企業・職種選びに臨みたい」など、視野が広がったとの感想が多く寄せられた。

グローバル人材育成プログラム 海外インターンシップ 参加者募集



第三銀行様の全面的なバックアップを受けて実施されている中国（上海・蘇州）への海外インターンシップ。平成27年度は2月22日から28日にかけて行われ、本学教員の引率のもと、国史学科3年の梅原潤君と現代日本社会学科2年の大谷愛乃さんが参加。現地の企業を訪問し従業員や駐在員と懇談した。

さらに、平成28年度からはマレーシアがインターンシップ先に加わる。これは、中期行動計画に則りグローバル人材の育成を教育ビジョンに掲げる本学が、日系企業が盛んに進出している東南アジアでのプログラムを企画したもの。背景には県内の産業界において海外で活躍できる人材へのニーズが高まっている状況がある。学生自身にとっても異文化体験は大いにプラスとなるはずだ。

- ◆海外初心者でも気軽に参加できるプログラム（治安の安定した国）
- ◆「近い」「安い」「企業が次々と進出」などで注目度抜群のアジア圏で海外体験
- ◆単位認定：共通科目「インターンシップ」（1単位）

中 国 (上海・蘇州)	マレーシア
【研修内容】 ● ジェトロや日系企業を訪問 ● 日本人駐在員や現地従業員との懇談 【特 徴】 ● 「第三銀行」との提携により実施 ● 第三銀行の行員と本学教員が引率、コーディネート 派遣期間：平成29年2月頃（1週間） 費用総計：約30万円 募集人数：4名	【研修内容】 ● 伊勢市内に本社のある「クローバー電子」のマレーシア現地法人で就労体験 ● 日本人駐在員や現地従業員との懇談 【特 徴】 ● 本学卒業生が全面的にバックアップ 派遣期間：平成28年9月頃（6日間） 費用総計：約20万円 募集人数：5名

「海外インターンシップ」について、別途説明会を開催します。詳細は学生支援部教務担当へ！

CLL活動レポート

7団体が一年の成果を発表



伊勢鳥羽志摩観光ポスター制作の意図について説明をする学生



左／明和町観光マップの工夫点を語るメンバー
右／聴衆者のコメント

三月二日、本学六二教室において平成二十七年CLL（コミュニケーション・ラーニング・ラボ）活動年度末報告会が開催され、伊勢志摩圏域の三市五町（伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町・明和町）の課題に取り組んできた七団体が活動の成果を発表した。

平成二十七年CLL活動年度末報告会が三月二日に実施された。七団体（別表参照）の代表者は各自の成果を八分の持ち

彩な内容が語られた。「伊勢志摩国立公園指定七十周年記念事業学生部会・あばばい」は伊勢志摩の独自性や魅力を学び、発信してきた経緯を紹介。現地の人々へのインタビューを通して、小さいアワビは獲らないなど生態系を守り自然に対して責任を持つ文化が根付いていることがよくわかったと熱く語った。

人を呼び込む難しさを感じたと語ったのは明和町観光パンフレット作成事業に取り組んだチームだ。それでも話し合いを重ねる中で多彩な案が出たようで、観光客が持ち歩ける地図の形状についても双六やポップアートの、巻物風など発想の柔軟かさを感じさせる内容となった。

- 発表を熱心に聞く聴衆者
- CLL活動団体
- 1 伊勢市上下水道新規啓発冊子作成
 - 2 伊勢鳥羽志摩観光PRポスター作成事業
 - 3 新しい里海創生によるまちづくり次世代協働プロジェクト事業「MOTANIER」
 - 4 玉城ミュージックモンスターフェスティバル
 - 5 伊勢志摩国立公園指定七十周年事業実行委員会・学生部会「あばばい」
 - 6 明和町観光パンフレット作成事業
 - 7 皇學館みらい対話団



「水道の利用率が高まるパンフレット」をコンセプトに伊勢市上下水道部の職員の方と連携して作成した冊子



「水道の利用率が高まるパンフレット」をコンセプトに伊勢市上下水道部の職員の方と連携して作成した冊子

「伊勢の美しい水道水」

「水道の利用率が高まるパンフレット」をコンセプトに伊勢市上下水道部の職員の方と連携して作成した冊子

「みらい対話団」がオーディエンス特別賞受賞！

ベストプラクティスコンテスト

三重県内の高等教育機関（大学・短大・高専）で学ぶ学生が地域活性化へ

はまさにその言葉に応える熱意でもって行動し、CLL活動の目的を立派に果たしたといえよう。教育開発センター長の齋藤平教授は「学生たちが主体性、当事者意識をもって取り組んだからこそ成果に結び付いた」と高く評価。一方で「今回の課題は行政サイドから提起されたもの。今後は学生が自発的に課題を見つけ、また、産業界や金融界などとも連携して活動の幅を広げてほしい」と期待を込めて語った。

三重県内の高等教育機関の取組事例を発表する三重県主催の「ベストプラクティスコンテスト」が二月二十八日、県庁講堂で開催され、本学の「皇學館みらい対話団」が最も共感者の多かった取組みに贈られる「オーディエンス特別賞」に輝いた。

今回で四回目となる同コンテストには十団体が参加。本学からは「皇學館みらい対話団」「ヒューマンネットワーク部」「伊勢・本のまちプロジェクト」「地域社会研究会」が出場し、各取組みを紹介した。発表後に行われた

来場者と審査員たちによる投票では、「皇學館みらい対話団」が最多となる票数を獲得。三重大・三重短大の「TJ」津学生情報室とともに同率一位となり、最も支持を集めた団体として「オーディエンス特別賞」が授与された。



表彰を受ける「皇學館みらい対話団」

皇高 NEWS

写真部・中川葉菜さんが金賞

第三十四回 新人写真コンテスト



何気ない日常風景を切り取った中川さんの作品「父と弟」

県高校写真連盟主催の「第三十四回新人写真コンテスト」において本校二年、写真

部に所属する中川葉菜さんの「父と弟」が見事金賞を受賞した。県内十三校から三五六名の応募があった中

での快挙だ。頂点に輝いた受賞作は

夕食後にくつろぐ父親と弟の姿をと

らえたもの。中川さんは「驚いたが

自分の身近な家族を撮った写真だった

ので本当に嬉しい」と喜びを語る。

審査員を務めた中西篤行さんは「いつもは見過

ごして

いる夜のひとときを、写真の目で見つめ直すことで今まで見たこともない光景とな

った」と講評した。

写真部では副部長を務める中川さん。昨年春、同部の顧問に就任した佐々木英人先生がポケットマネーをはたいて

全部員にフィルムカメラを与えたことを機に、モノクロ写真の世界に引き込まれた。「最初のうちは難しいと思ったフ

イルム現像やプリント作業も、何回か繰り返ししているうちに面白く感じるようになった。白黒写真は色が

ない分、ストレートに自分の表現意図

を伝えることができる。撮れば撮るほど奥深い」と、カラー写真にはない魅力を語る。これからも高校生の視点

で、高校生である今しか撮れない写真を目標に活動していきたいと話し、副部長として

は一般の方に部員たちの作品を見ていただける機会を増やして、自分たちの活動の成果を積極的に発表していきたいと意気込む。

なお、中川さんは第一回東海地区高校生フォトコンテスト(主催:東海地区高校生フォトコンテスト実行委員会)においても「登校前」という作品で入選した。

歴史的価値に直接触れる

京都フィールドワーク

二月十八日から十九日にかけて、総合的な学習の一環として全一年生が参加しての京都フィールドワークが実施された。当日は好天にも恵まれ、

平安神宮での正式参拝の後、班ごとに事前学習で調べた目

的地の神社仏閣や博物館をめざした。生徒たちは地図を片

手に日本文化の遺産が凝縮された古都京都の町並みを歩き、その歴史的価値に直接触

れることで大いに見聞を広めることができた。またこのフ

ィールドワークで友人と生活を共にすることにより規律を

守ることや協力し合うことの大切さなどを学び、たいへん

成長したように思う。以下に生徒の感想を紹介する。

●時間をきちんと守ることや皆と協力して行動をするこ

とでチームワークが良くなったのが嬉しかった。

●地下鉄は複雑で乗り換えもあって難しかったけれど皆で相談して目的地に着けたので良かった。八坂神社を見つけたときはその大きさに驚いた。

●今日訪ねた高台寺が印象的

で茶室、和室そして庭園が当時の文化の様式を象徴している遺産で素晴らしいと思った。

●地元の方に親切に道を教えてもらった。散歩中のおじいさんやタクシーの運転手さんにも東福寺のことを教えてもらって京都の方の優しさに触れることができた。

●京都の歴史に触れ本物の良さを感じ取ることができ、

班員の絆も深まってこの一年で一番楽しい学校行事となった。

●この二日間で集団行動の大切さや相手を思いやる気持ちなどいろいろなことを勉強することができた。

●天龍寺の庭園は綺麗で大きく、声も出ないほど感動した。



平安神宮正式参拝を前に全員整列

皇中 NEWS

プロの先生が直接指導

能楽囃子体験教室

二月十七日の午後、セミナーホールにおいて開催された能楽囃子体験教室に、二年生が参加。和楽器や謡、舞について説明を受け、直接稽古をつけていただく貴重な機会となった。

舞の迫力、完璧な演奏に圧倒

一年A組 溝口愛実

今回、ずっと楽しみにしていた能楽囃子体験教室に参加できました。こんな機会はめったにないので、本当に良かったです。

まず、舞の迫力がすごかったです。舞っていらっしやる

先生が間近に来られたとき、思わず後ろに下がりました。それぞれ違う地域から集ま

て来られた五名の先生方はいつもは一緒に練習されてい

ないにも関わらず、完璧に演奏されていて感動しました。か

け声がとても重要なんだと思いました。

希望者を募った体験では笛に挑戦しました。笛を吹いて

いたら途中でくらくらしてしまいました。短い時間でも疲

れるのに、プロの先生方はずっと長い時間演奏されるの

笛や小鼓、太鼓の演奏に挑戦した生徒たち

諦めない心養う

長野県・スキー研修

長野県・白樺湖ロイヤルヒルスキー場において三月六日から二泊三日の日程で二年生がスキー研修を行った。三日目にはどの生徒も驚くほど上達し、ケガや病気になることもなく全員が無事に帰宅した。

チャレンジ精神が大切

二年A組 鈴木美沙

出発式で服部教頭先生がおっしゃっていた「チャレンジ精神」という言葉。その言葉が私の中で研修のキーワードになりました。

研修ではその精神を実際に意識して臨み、「挑戦する心」「自分に自信を持つ心」「何事

で、「すごい」と憧れてしまいましたが、私は部活でサックスを吹いて

います。もっと練習して先生方のように完璧にしたい

と思います。

スキー実習ではなかなか上手に滑ることができず、途中で何度も諦めそうになりました。でも、班のメンバーが「頑張れ!あと少しだよ」などと声をかけてくれたので、最後まで諦めずに続けることが

できました。班のメンバーの応援はとてもありがたいと思

いました。

「国の始まり、言葉の始まり」

建国記念の日の講演



講演する齋藤教授

本学文学部の齋藤平教授が講師となり、皇學館高校・中学校の生徒を対象に、二月十日、建国記念の日の講演が行われた。演題は「国の始まり、言葉の始まり」。以下に生徒たちの感想を掲載する。

●講演を聞いて、日本語を正しく未来へ受け継いでいくことが大切なんだと感じた。これからしっかりと国語を勉強して、美しい日本語を正しく伝えていきたい。

●「うぐいす」の名の由来について、鳴き声が「ウグイス」と言っているように聞こえたため、その名が付いたと知って面白かった。

●神代文字についてあらためて学んだ。

●アイヌ語について知ることができて良かった。

●言語は使わなくなってしまうと消滅してしまうと聞き、これからは正しい日本語を使い、ふさわしい行動をしていこうと思った。

●人々が口々に伝え合っていく

「伝承」があったからこそ言葉があるのだと知った。これからは感謝を込めて日本語を大切に使っていきたい。

●「日本」は外国の文字を使って

いる国名だということを初め

て聞いた。

●建国記念の日として定められている二月十一日が、日本書紀において神武天皇即位の日となっていることを初めて知

った。

●先人が長い年月をかけて完成させた文化としての日本語、言語としての日本語と、両方世界に誇れるものだと感じた。

●元日と建国記念の日だけが国が定めた祝日だと聞いて驚い

た。

●国民の祝日の成り立ちや日本語の大切さを知ることができた。明日の建国記念の日をいつもとは違う意識で過ごしたい。



ゲレンデで仲間と一緒に記念撮影

諦めずに続けることができた

二年B組 刀根麻光

スキー実習ではなかなか上手に滑ることができず、途中で何度も諦めそうになりました。でも、班のメンバーが「頑張れ!あと少しだよ」などと声をかけてくれたので、最後まで諦めずに続けることが

できました。班のメンバーの応援はとてもありがたいと思

いました。

また、今回の研修では、とくに集合時間を厳守することができました。先生方の指導で気付いた不十分な点は、これからの学校生活で改めて

きたいと思います。

また、今回の研修では、とくに集合時間を厳守することができました。先生方の指導で気付いた不十分な点は、これからの学校生活で改めて

したいと思います。

卒業生奮闘中！

八尾 吉宣さん 一般財団法人 沢井病院 地域医療連携室 室長
社会福祉学部学科 第1期(平成14年3月)卒、
大学院社会福祉学研究科 第1期(平成16年3月)修了



私は現在、奈良県奈良市にござい
ます一般財団法人沢井病院地域医療
連携室において医療ソーシャルワ
ーカーとして勤務しております。医療
ソーシャルワーカーになることは大
学入学前からの夢でもありました。
私は子どもの頃から体が弱く、本当
に多くの方々に支えられながら成長
してきました。そして進路を決める
高校生の頃に医療ソーシャルワカ
ーの存在を知り、「これだ！」と思っ
て迷わず社会福祉学部の門を叩きま
した。

医療ソーシャルワーカーの業務は
多岐に渡ります。「これって本当に我
私の仕事？」と感じるようなことも
こなさなければならぬ時も多々あ
ります。しかし、全て是我々を必要
としてくれる患者さんのためであ
り、笑顔で退院される患者さんの姿
を見る度にその時の苦労はどこかに

吹き飛びます。相談内容は十人十色
で一つとして同じ相談はありません。
時には悩み、時には失敗もして
患者さんに怒られることもありま
す。しかしそれも自分のスキルアッ
プのための勉強であり、それを今後
の援助にどう活かすかだと思つて日
日業務に邁進しています。

これから福祉の道を志そうとして
いる方には是非失敗を恐れず何事
にも積極的に取り組んでいただきたい
と思います。それが必ず誰かの役に
立ちますし、自分を必要としてく
れる方は必ずいます。自信を持って勉
強に励んでください。

そしてこの度私は認定社会福祉士
(医療分野)の資格を取得することが
できました。その名に恥じぬよう、
より一層の努力を重ねていきたいと
思っております。



【文化体験】世界で一つだけのオリジナルドリームキャッチャーが完成！

二十五名がカナダへ語学研修

海外短期語学研修報告

皇學館中学教務部部長 小林 誠 治

三月二十日から三十日
までの十一日間、カナダ・
アボッツフォードに短期
語学研修に行ってきました。
た。出発前はインフルエ
ンザの心配もありました
が、一年生七名、二年生
四名、三年生十四名、計
二十五名全員揃って参加
することができました。

研修プログラムとして
は、午前中はスタディー
センターで英語で授業を
行い、日常生活で使う様
々な表現を練習したり、
現地の文化や慣習などを
学んだりしました。午後
は、ショッピングやイー
スターホリデーアクティ
ビティ、ドリームキャッ
チャー作りなど、午前中

の授業で学んだことを実
践しながら課外活動を行
いました。
研修中は高校生ぐらい
の年代のバディーがつい
て、生徒たちの分からな
いことを優しく教えてく
れたり一緒に遊んでくれ
たりと、まるでお兄さん
お姉さんのように常に生
徒たちをサポートしてく
れました。また、経験豊
かなホストファミリーが
多く、体調を崩した生徒
にも温かく対応していた
だいたり、週末に色々な

場所へ連れていくくださ
ったりと、常に生徒た
ちを気遣い、家族の一員
として接してくださいま
した。
このように、先生・バ
ディー・ホストファミリ
ーが一体となったサポー
ト環境の中で、生徒たち
は英語はもうろんのこ
と、現地の自然・文化・
歴史に実際に触れなが
ら、大変貴重な体験をす
ることができました。食
文化や慣習に戸惑うこと
もあったものの、一生懸

命に英語で自分の意見や
気持ちを伝えようとする
生徒たちの姿に、大きな
成長と頼もしさを感じま
した。この経験をこれか
らの自分自身の生活に存
分に生かすとともに、ぜ
ひ家族や友だち、他の先
生とも共有していっても
らいたいと思います。
さらなる詳細に関して
は保護者会報にて報告さ
せていただきます。なお、
本研修の様子は中学校H
Pにアップしてあります
ので、ぜひご覧ください。

安全意識、危機対応能力が向上

救命講習を実施

運動系クラブの学生と
教職員を主な対象に、二
月八日、九号館大会議室
にて救命講習が実施され

た。
伊勢市消防本部や伊勢
市消防団の職員を招いて
行われた同講習。内容は、
応急手当の目的や必要性
を講義形式で学び、心肺
蘇生法やAEDの使用方
法を実技形式で体験する
というもの。参加した学

生は「緊急事態が発生し
た時に、救命講習で学ん
だことを知っているか知
っていないかで対応が変
わってくると思う」と話
し、経験の有無の重要
性をあらためて認識した
ようだ。
本学では今後も避難訓



心肺蘇生法を実際に体験

オヤネザクラ(お屋根桜)の寄贈

伊勢市の天然記念物・
オヤネザクラお屋根桜
の普及に尽力されている
橋本理市さん(伊勢市朝
熊町在住)より苗木二本
の寄贈があり、二月十日、
九号館玄関脇の芝生スぺ
ースに植樹していただい
た。



橋本さん(右端)は既にやすらぎ公園や
神宮文庫などに寄贈、植樹されており、
本学は3番目とのこと

オヤネザクラは昭和三
年に新種の山桜として発
表されたもの。その後絶
滅したと思われていた
が、昭和五十三年、四株

のオヤネザクラが確認さ
れ、旧豊宮崎文庫内に二
株の原木が現存してい
る。由来については豊宮
崎文庫創設を提唱した外

宮権禰宣・出口延佳宅の
屋上に生えていた桜とす
る説と外宮の正殿の屋根
に自然に根付いたものと
いう説がある。

平成28年度 皇學館大学・近鉄文化サロン共催講座のご案内(4月~9月)

開催場所 ● 近鉄文化サロン阿倍野

聴講料有料

1日・短期講習会

※入会金は不要 【会員】各1,188円 【一般】各1,620円

4月16日(土) 伊勢志摩の自然と神話

現代日本社会学部現代日本社会学科 教授 橋本 雅 之

4月23日(土) 古文書を読む―酒井忠世から真田信之への書状―

文学部国史学科 教授 岡 野 友 彦

5月7日(土) 神道の作法―神職の斎戒と食―

文学部国文学科 教授 中 川 照 将

5月21日(土) 伊勢神宮と熊野権現

文学部神道学科 助教 木 村 徳 宏

6月18日(土) 道教文献を読む―「悟真篇」の世界―

文学部国文学科 准教授 松 下 道 信

7月30日(土) なぜ、若者は神社を目指すのか?

～聖地巡礼の現代的な変容から～

教育開発センター 准教授 板 井 正 斉

9月17日(土) 桓武天皇と『続日本紀』

研究開発推進センター 准教授 遠 藤 慶 太

お申込み・お問合せは 近鉄文化サロン阿倍野

〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-1-40 and 4 階

掲載講座専用フリーダイヤル ☎0120-106-718

※携帯・PHS等、一部の電話からはご利用いただけません。

その他のお問合せ・お申込みは TEL06-6625-1771

平成28年度 皇學館大学 月例文化講座

聴講料無料

年間テーマ 伊勢志摩のくらし今昔

担当 ● 教育開発センター

各日とも 時間 ● 午後2時より 場所 ● 4号館 431教室

第1回 5月7日(土) お伊勢参りとお伊勢ぐらし

板 井 正 斉 准教授

第2回 6月4日(土) 新しい時代の「ヨリアイ」

池 山 敦 助教

第3回 7月2日(土) 乗りあうことでつながる交通

笠 原 正 嗣 教授

第4回 9月10日(土) 元気なまちのつくり方

千 田 良 仁 准教授

第5回 10月1日(土) いらっしゃいませ。商店街のミライ

筒 井 琢 磨 教授

第6回 11月12日(土) お伊勢さんとゆたかな海・山

近 藤 玲 介 准教授

第7回 12月10日(土) ふるさとのお宝ことば

齋 藤 平 教授

古事記を読み解く―天若日子の反逆～イワレヒコ誕生の段

文学部神道学科 教授 白 山 芳 太郎

月1回 6ヵ月 7,128円

4月9日(土) 天若日子の反逆～安河原でのばかりごと

5月14日(土) 建御雷の派遣～事代主の服従

6月11日(土) 建御名方の服従～大国主の国譲り

7月9日(土) ニニギの命の誕生～天孫降臨

8月20日(土) 猿女君のいわれ～コノハナサクヤヒメとの結婚

9月10日(土) 海幸山幸～イワレヒコの誕生

神道と仏教―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離―

文学部神道学科 教授 河 野 訓

月1回 3ヵ月 3,564円

6月25日(土) 書寫山圓教寺における神仏習合と神仏分離

7月23日(土) 江島神社における神仏習合と神仏分離

9月24日(土) 粉河寺と産土神社における神仏習合と神仏分離

『日本書紀』を読む

文学部国文学科 教授 大 島 信 生

全6回 【会員】7,128円 【一般】9,720円

※1回単位でも受講可。入会金は不要。【会員】各1,188円 【一般】各1,620円

4月2日(土) 日本書紀の概要、天地開闢と三柱の神(1)

4月30日(土) 天地開闢と三柱の神(2)、四対偶の八神・神世七代

5月28日(土) 磯敷慮島での聖婚と大八洲国の誕生(1)

7月16日(土) 磯敷慮島での聖婚と大八洲国の誕生(2)

8月6日(土) 天照大神・月夜見尊・素戔鳴尊の誕生(1)

9月3日(土) 天照大神・月夜見尊・素戔鳴尊の誕生(2)

イベント情報 (4～6月)

4月	30 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	『日本書紀』を読む「天地開闢と三柱の神(2)、四対偶の八神・神世七代」 大島信生(文学部教授)		
5月	7 土	月例文化講座	431教室
	お伊勢参りとお伊勢ぐらし 板井正斉(教育開発センター准教授)		
	7 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	1日・短期講習会 源氏物語はいかにして『源氏物語』 となったか 中川照将(文学部教授)		
	14 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	古事記を読み解く一天若日子の叛逆～イワレヒコ誕生 の段 建御雷の派遣～事代主命の服従 白山芳太郎(文学部教授)		
	21 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	1日・短期講習会 神道の作法―神職の斎戒と食― 木村徳宏(文学部助教)		
	21 土	佐川記念神道博物館 教養講座	佐川記念神道博物館講義室
	学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅲ「萬古焼の歴史と魅力」 浅川充弘(朝日町歴史博物館学芸員)		
	28 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	『日本書紀』を読む「磯敷慮島での聖婚と大八洲 国の誕生(1)」 大島信生(文学部教授)		
6月	4 土	月例文化講座	431教室
	新しい時代の「ヨリアイ」 池山 敦(教育開発センター助教)		
	4 土	研究開発推進センター 史料編纂所古文書講座	佐川記念神道博物館講義室
	古代文書を読む 遠藤慶太(研究開発推進センター准教授)		
	11 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	古事記を読み解く一天若日子の叛逆～イワレヒコ誕生 の段 建御名方の服従～大國主命の国譲り 白山芳太郎(文学部教授)		
	18 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	1日・短期講習会 道教文献を読む―『悟真篇』の世界― 松下道信(文学部准教授)		
	25 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	神道と仏教―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離― 「書寫山園教寺における神仏習合と神仏分離」 河野 訓(文学部教授)		
	25 土	佐川記念神道博物館 教養講座	佐川記念神道博物館講義室
	学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅲ「松浦武四郎 と伊勢神宮」 山本 命(松浦武四郎記念館学芸員)		

●各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。

●共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、**有料**です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野(☎0120-106-718)へお願い致します。

●佐川記念神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは☎0596-22-6471へお願い致します。

●研究開発推進センター史料編纂所公開講座・古文書講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは☎0596-22-6462へお願い致します。

●その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室(☎0596-22-8635)へお願い致します。

昭和五十年に誕生した教育学
科が設立四十周年を迎え、記念
となる座談会が開催されました。
実習先の確保に奔走した話や段
ボールでハードルを作った思い
出など、同学科・学部の新設・
発展に尽力された教授陣が語る
当時のエピソードにじつと耳を
傾けていた学生たちは、先人の
創意と献身的な努力に思いを馳
せ、感謝の念を新たにしようと
す。今あるものを当然と思わ
ないで――しっかりと胸に刻ん
でいきたい言葉です。【企画部】

第30回卒業記念ミュージカル ゆうきのヒーローたち～3つの大切なこと～ 子どもへの思いあふれる舞台に



1年間の練習の成果を力いっぱい発揮した学生たち

物語の主演は小学三年生の「ゆうき」。自分の気持ちを上手に伝えること

毎年人気を博している教育学部四年生有志「一三五名」による卒業記念ミュージカルが津市の三重県総合文化センター中ホール(二月十九日・二十日)、本学記念講堂(二月二十七日・二十八日)で開催された。教育学科創設四十周年を迎え、三十回目という記念すべき節目となった今回は客層を広げたいと津の初回公演を金曜十八時に開演。例年に比べ成人の顔ぶれが多く見られる中、学生たちは熱演を繰り広げた。

物語の主演は小学三年生の「ゆうき」。自分の気持ちを上手に伝えること

めざすは長所を活かせる委員長

実行委員長を務めたのは教育学科四年の池内優さん。過去十数年、男子学生が就いてきた実行委員長に立候補した理由について、「集団のトップという今まで立ったことのないポジションを担うことで成長できると思った



池内さんの「ミュージカルはいかがでしたか?」との問いに、観客は大きな拍手でもって答えた

「一三五名のメンバーをまとめるにあたり、めざしたのはみんなの良いところを引き出せる委員長。各班をこまめに見て回り、笑顔が素敵と思えば全員の前で褒め、気配り上手なメンバーには自身の代わりにフォ

て「笑顔」の大切さを学んでいく。



プロの指導で内容に深み

現役で活躍するミュージカル俳優・王子菜摘さんに指導していただけた。王子さんが道具班など裏方の学生も楽しめる練習法を取り入れたり、歌詞の意味を考え気持ちを込めて歌う重要性を教えてくださったことでみんなの意識が変わったというか、歌声に色が付いた。ロを任せるなど、長所を活かすことに心を砕いた。危機もあった。自他とも認める泣き虫の池内さん。中心となる人間が泣いてはいけないと涙を封印していたが、ある日ぶつりと糸が切れたように涙が止まらなくなったという。しかし、池内さんの様子に気付いたメンバーが救いの手を差し伸べてくれた。「普段はおとなしく、受け身な性格だと思っていた子がリーダーシップを発揮して引張ってくれたんです。おかげで、一人で抱え込まず、共に頑張っていけばいいんだと肩の力が抜けました」。

楽しめたとの感想口々に

娘さんがこの四月に本学教育学科へ進学することになった。平成二十四年度の卒業生だった女性には「私はちびっ子パンを演じました。年代や演目は違っても、子どもたちに喜んでほしいという気持ちは同じなんです」と当時を思い出し、懐かしそうに語った。津市在住の親子は「聞いたことのある音楽がいっぱい使われていたので、息子と最後まで楽しく鑑賞することができました」と笑顔で話していた。



開演1時間前から行列ができた

「劇的に良くなりました」。そうして試行錯誤しながらみんなで創り上げたミュージカルは「ガッツヤマンの歌」や「WAになつておどろろ」などテンポの良い曲を取り入れ、楽しみなが教育的なメッセージを学べる内容に。舞台の途中でキャストが客席に降りると握手を求める観客が続出するなど、会場が一体となって盛り上がった。

皇居勤労奉仕団活動報告



感謝の誠を捧げるべく

皇居勤労奉仕団 第十九代団長 齋藤 佳祐

皇學館大学の皇居勤労奉仕は今年で十九年目となる。学部学科を問わず全学一致で編成された、学生により運営される奉仕団である。今回は二月十六日から十九日までの日程で四十名が参加して行われた。私は本学に入学してから毎年皇居勤労奉仕に参加しており、今年度も団長という大役を拝命した。私自身平日頃から我が国の悠久の歴史と伝統に思いを馳せ、国柄の淵源たる

皇室のお役にたちたい、と考えていた。参加した団員もまた皇室への感謝の誠を捧げるべく集まった仲間である。奉仕期間中は天皇皇后両陛下並びに皇太子殿下より御会釈を賜った。天皇皇后両陛下におかれましては、我が皇學館大学のことをよくご存知であらせられ、天皇陛下には「ご苦労様」、皇后陛下には「遠いところありがとう」とねぎらいの御言葉を賜り、団員一同恐懼感激した。結びにあたり、今後も奉仕団へのご理解とご協力を切に願うものである。

春は自動車免許の取得が お得なシーズン!

「皇學館大学生限定料金」で割安に免許が取得できます!



皇學館大学生限定!

通学型料金例

AT 特別料金	246,536円(税別)
MT 特別料金	260,629円(税別)

料金は、会社ごとシーズンごとに異なります。上記は一例です。

提携先

通学型	松阪市	●松阪自動車学校*
	津市	●松和自動車学校*
合宿型	*皇學館大学へ無料送迎バスあり	
	●三重中央自動車学校	
	●三重高等自動車学校	
合宿型	●Get免許予約センター	
	●免許の窓口	
	●合宿免許	

お問合せ先



皇學館サービス株式会社

TEL 0596-22-8561 E-mail k-service@kogakkan.co.jp

皇學館サービス株式会社は学校法人皇學館100%出資会社です。
【取扱商品】各種保険・下宿斡旋・旅行・貸衣装・スーツ 他

K-らいふ

Activity Report of 2015

平成27年度 活動報告

全学
一体

退任によせて

平成二十七年で退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

感無量

教育学部教授 深草 正博



三十年間、過ぎてみれば早いもので、あっといふ間に。今年で教育学部は四十周年を迎えたので、その四分の三を過ごしたことになります。感無量です。振り返ってみれば、激動の時代でした。とりわけ文学部教育学科から教育学部教育学科への移行の時は大変でした。

明るく、強く、正しく

高等学校教諭 出口 鏡子



朝起き、愛犬リップと時間通りに自転車散歩。お墓にお水とお線香、手を合わせて「今日も皆が無事に過ごせるように」と祈ります。そして学校に行く

倉田 山

皇學館高等学校・中学校校長 中村 貴史



中学校が倉田山だったので、

中・高・大と十年。学園にお世話になって、二十五年。計三十五年間をこの地に通った。道桑の交が語ればいいが、おぼえていない。同級生が「この辺り、田圃がひろがって」なんて言う。そうかなとも思うが、正直、よくわからない。僕らの世代、子どもはうじゃうじゃいた。中学校は学年で十六、七クラス、全部で二千二百人はいったから、毎日初めて見るような顔があつて、それだけでも退屈しなかった。今でも、神宮皇學館六角講堂で行われた中学校入学式の壮観さと、咲いていた老木

縁あれば千里

高等学校教諭 杉田 貴大



恩師から声をかけていただいたことをきっかけに、この皇學館高等学校にお世話になりました。中でも三年生担任として過ごした最後の一年は、特に感慨深い一年となりました。高校三年生はまさに進路決定の時

生徒との交換ノート

高等学校常勤講師 小野 通明



十一年間、三年生の六年制と特進の理系数学を担当し、前年の入試問題を数学Ⅲ二百題とそれ以外二百題を授業で生徒と解くことに専念してきました。生

した。しかし、その日々にも終わりが来ました。何か荷物を一つ降ろした気がします。もう急ぐ必要もない。ゆつくりとした朝を過ごせるという、違つ幸せに浸る日々が来ます。

生徒の皆さん、自分の潜在能力を花開かせてください。そして、いつも「素直な人」「正直な人」であって欲しいと願っています。私はこれからまだ見ぬ新しい人生を、自分らしく生きるため、もの作りに挑戦しようと思っています。そう思えるのも、ここまで元気に仕事をさせていただいたから。感謝感謝です。

いろいろな方々と共に楽しい思い出を作ることができました。最後になりましたが生徒の皆さん、そして保護者の方々に心より御礼申し上げます。

出会いが人を育て、また次の人を育てていく。これこそ「共育」だと思います。

皇學館が結んでくれた「縁」によって出会えた全ての人々への感謝の気持ちを胸に、私は新たな未来に向かっての一步を、力強く踏み出します。

最後になりましたが、皇學館の更なる御発展と、皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

大 学

平成27年度 デキゴトロジー 行事日誌

4月	入学式 ●春学期通常講義開始 ●共催講座「古事記」上巻を読む「天と地のはじめ、イザナギの命とイザナミの命」白山芳太郎(文学部教授) ●月例神宮参拝 ●共催講座「1日・短期講習会」古文書を読む「大坂落城を伝える細川忠興の書状」岡野友彦(文学部教授) ●共催講座「神道と仏教」室生寺における神仏習合と神仏分離 ●河野訓(文学部教授) ●創立記念日
5月	●神道学会総会 ●月例文化講座「万葉集、旅の歌」大島信生(文学部教授) ●共催講座「古事記」上巻を読む「列島誕生・神生み」白山芳太郎(文学部教授) ●共催講座「1日・短期講習会」記紀・風土記の「大きな神」「小さな神」櫻井治男(文学部教授) ●月例神宮参拝 ●神の会総会 ●学生会役員会、公開総務委員会
6月	●佐川記念神道博物館教育講座「学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅱ」「里山の成立と人の暮らし」布谷知夫(三重県総合博物館館長) ●共催講座「神道と仏教」大和・長谷寺における神仏習合と神仏分離 ●河野訓(文学部教授) ●現代日本塾「社会人として成果を出すということ」 ●河野文博(ファイトナ日本法人アカデミックエグゼクティブ)
7月	●研究開発推進センター史料編纂所古文書講座「古代文書を読む」遠藤慶太(研究開発推進センター准教授) ●月例文化講座「源氏物語」光源氏の恋愛の世界を旅する ●中川昭将(文学部教授) ●共催講座「古事記」上巻を読む「イザナミの命の死 黄泉国訪問」白山芳太郎(文学部教授) ●オープンキャンパス ●月例神宮参拝 ●国文学会文学散歩「もちろん桑名の焼き蛤」 ●寮祭 ●現代日本塾「日本語の国際化・日本語と日本文化について」 ●鈴木孝夫(慶應義塾大学名誉教授) ●佐川記念神道博物館教育講座「学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅱ」「川喜田半泥子と石水博物館」半泥子が三重にのこしたものの「龍泉寺由佳(石水博物館学芸員)」 ●共催講座「神道と仏教」信貴山における神仏習合と神仏分離 ●河野訓(文学部教授)
8月	●戦後70年館友戦没者慰霊祭 ●月例文化講座「平家物語」馬から読む「深津睦夫(文学部教授)研究開発推進センター史料編纂所古文書講座「古代文書を読む」荻木美行(研究開発推進センター教授) ●共催講座「1日・短期講習会」(まづりの心)とおもてなし」木村徳宏(文学部助教) ●共催講座「古事記」上巻を読む「視き・三貴子誕生」白山芳太郎(文学部教授) ●オープンキャンパス ●保護者対象就職講演会・説明会 ●FD講演会「大学に求められる改革」齋藤平(教育開発センター長) ●共催講座「1日・短期講習会」大阪府の万葉集(Ⅰ)大島信生(文学部教授)みえアカデミックセミナー2015「戦国貴族の生き残り戦略」岡野友彦(文学部教授) ●現代日本塾「人生60年では死ねない現代社会」 ●徳野貞雄(一般財団法人トクノスクール農村研究所理事長 熊本大学名誉教授)避難訓練 ●共催講座「神道と仏教」鞍馬山における神仏習合と神仏分離 ●河野訓(文学部教授) ●夏休み親子教室(真珠貝ではり絵アート) ●春学期通常講義終了
9月	●共催講座「1日・短期講習会」(宮崎アメから神道を考える)ゆるやかにつなぐる神々」板井正斉(教育開発センター准教授) ●夏休み親子教室(真珠貝ではり絵アート) ●共催講座「古事記」上巻を読む「スサノオの命の高天原来訪・五男三女神誕生」白山芳太郎(文学部教授) ●オープンキャンパス ●教員免許更新講習 22日

研究開発推進センター トピックス

平成二十五年四月に発足して以来、地域の知の拠点としての役割にさらなる期待がかかる「研究開発推進センター」。平成二十七年年度の活動を報告します。

神道研究所

家伝文書の継承こそ嫡流の証

公開学術講演会を開催

公開学術講演会「中世に於ける公家衆の家名伝襲と家伝文書・家領の継承」(橋本政宣東京大学名誉教授・舟津神社司司)が、平成二十七年(二〇一五)十一月十二日、本学四号館四三二教室で開催され、八十一人が参加した。

見ると、代々その家に伝えられる文書・記録を継承する家が嫡流であるか否かを示す重要なポイントであると講じられた。具

桓武天皇朝の研究が活発化

公開学術シンポジウムを開催

公開学術シンポジウム『桓武天皇とその時代』が、平成二十七年(二〇一五)十二月十九日、佐川記念神道博物館講義室で開催され、五十一人が参加した。

神道研究所では『延暦儀式帳』の研究を開始し、史料編纂所では『続日本紀史料』を完結するなど、研究開発推進センター内において桓武天皇朝の研究が盛

史料編纂所

古代史書の世界へ誘う

公開講座、古文書講座を開催

史料編纂所の公開講座は、(古代史書の世界)をテーマに平成二十七年九月二十六日に開催し、五十四名の参加があった。「壬申の乱と伊勢」(荊木美行教授・研究開発推進センター副センター

長)・「黄金産出(遠藤慶太准教授)に続き、ゲスト講師としてお迎えした平林章仁先生(龍谷大学教授)より「推古天皇と蘇我馬子と天照大神」とのタイトルで講演いただいた。平林先生は平成二十七年七月に『日の御子』の古代史(塙書房)を刊行されたばかりで、記紀の所伝を尊重しながら、民俗学の視点を与えて古代の精神・心性を魅力的に語っていただき、受講生にはたいへんに好評だった。平成二十八年度は邪馬台国をテーマにした公開講座の開催を計画している。



大主家文書に見入る参加者たち。右は講師の谷戸先生。(古文書講座より)

また一般市民から要望の多い古文書講座は、「古

代文書」「近世文書」の二本立てで開催した。「古代文書」は「ラストで読む正倉院文書(遠藤慶太)」「卑弥呼を親魏倭王とする制書(荊木美行)と題し、各一回ずつ古代史の基本となる文書の読み解きを披露した。「近世文書」の講座は崩し字の読解や地元の歴史への関心から人気が高い。今年度は谷戸佑紀先生(本センター共同研究員)が講師となり、全三回で江戸時代の伊勢地域、御師と遷宮など興味深いテーマを掘り下げた。フレッシュな谷戸先生の講座では、展示した大主家文書の実物を前に熱心な質問が相次ぎ、開催側でも手ごたえを感じる反応だった。要望に応じて平成二十八年度も谷戸先生を講師とする「近世文書」の講座開催を予定している。

平成28年度 教養講座のご案内

テーマ 学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅲ

第1回 5月21日(土)

萬古焼の歴史と魅力

講師 ● 朝日町歴史博物館学芸員 浅川 充弘 先生

第2回 6月25日(土)

松浦武四郎と伊勢神宮

講師 ● 松浦武四郎記念館学芸員 山本 命 先生

第3回 10月22日(土)

伊勢における商人の町 河崎

講師 ● 伊勢河崎商人館事務局長 西城 利夫 先生

第4回 11月26日(土)

斎宮 ～よみがえる『幻の宮』～

講師 ● 斎宮歴史博物館学芸員 榎村 寛之 先生

時間 ● 午後 2:00～

会場 ● 皇學館大学 佐川記念神道博物館講義室

定員 ● 各60名 (定員になり次第締め切ります)

申込方法

電話またはご来館の上、直接お申し込み下さい

皇學館大学 佐川記念神道博物館 ☎0596-22-6471

佐川記念神道博物館

学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅱ ― 教養講座

平成二十七年年度は、前年度に続いて「学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅱ」のテーマのもと、左記の四回を実施した。いずれの回も県内各地から聴講生が集まり、講師の話を書き留めたりして熱心に聞いていた。

【第三回】十月二十四日

十七名受講

「産業振興と博物館」

講師 松月清郎先生

真珠博物館館長

真珠王・御木本幸吉の生涯、その真珠産業への取り組みから産業振興としての博物館の役割についてお話しくださった。

【第一回】五月二十三日

三十四名受講

「里山の成立と人のくらし」

講師 布谷知夫先生

三重県総合博物館館長

里山の成り立ちや、里山保全運動の展開、里山を保全することの目的・意義について、ご講話くださった。

【第二回】六月二十七日

三十八名受講

「川喜田半泥子と石水博物館

― 半泥子が三重にのこしたもの ―

講師 龍泉寺由佳先生

石水博物館学芸員

政・財界で活躍し陶芸家としても著名な川喜田半泥子の生涯と郷土三重への影響、作品の魅力についてご紹介いただいた。

【第四回】十一月二十八日

四十一名受講

「二時間で巡る亀山市の歴史旅行 ― 古文書・古記録・絵図との出会い ―」

講師 小林秀樹先生

亀山市歴史博物館館長

亀山市の歴史について博物館資料を用いたご紹介、また亀山市歴史博物館の取り組みをお話いただいた。

12月	5日	●推薦入試(後期)他	●現代日本塾(伊勢に願いを)	●上島憲(伊勢商工会議所会頭・株式会社サニール代表取締役)	●学内奨学金授与式	●月例文化講座(跋文にみる蘇軾) 上小倉 志(文学部准教授)	●ふるさと講座(伊賀の古墳文化と雄略天皇朝) 岡田登(文学部教授)	●共催講座(古事記「上巻」を読む「八十神の迫害」根国での試練」)	●白鳥芳太郎(文学部教授)	●月例神宮参拝	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神の出生) 松本丘(文学部教授)	●研究開発推進センター神道研究所公開学術シンポジウム(桓武天皇とその時代)	●秋学期通常講義閉講	●共催講座(神道と仏教―日光における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	26日	22日	●秋学期通常講義再開	●学長年頭講話・学内成人式	●共催講座(古事記「上巻」を読む「大國主神の国造り―スセリ姫の嫉妬」)	●白山芳太郎(文学部教授)	●伊勢学・鈴木市長講話	●月例神宮参拝	●史学会講演会(六国史と源氏物語) 遠藤慶太(研究開発推進センター准教授)	●現代日本塾(私と保育所と地域社会)	●松本實(社会福祉法人相模会のひる保育園 総園長)	●共催講座(神道と仏教―龍神社と成相寺における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●専の会役員会	●一般前期入試 31日	29日	●秋学期通常講義終了	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―月夜見尊と保食神) 松本丘(文学部教授)	●教育学科創設四十周年記念座談会	●深草正博教育学部教授退任記念講演「教育とマジック」	●建国記念の日・神宮参拝	●出寮式	●4教卒業記念ミーティング	●「ゆづきのヒーローたち」3つの大切なこと」津公演 20日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「タギリ姫―フクナヒコナとの共治」)	白山芳太郎(文学部教授)	●専攻科入試	●一般中期入試	●大学院入試	●4教卒業記念ミーティング	●「ゆづきのヒーローたち」3つの大切なこと」伊勢公演 28日	●博士連携シンポジウム(大学の学芸員養成・教育と博物館)	29日	27日	●平成27年度CLL活動年度末報告会(地知の拠点整備事業)	●共催講座(神道と仏教―黄檗宗寺院における神と仏)	河野訓(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(大阪府の万葉集②) 大島信生(文学部教授)	●学内合同企業説明会 8日	●一般後期入試	●共催講座(古事記「上巻」を読む「大天神の子孫―葦原の中つ国のことむけ」)	白山芳太郎(文学部教授)	●学位記・修了証書授与式(卒業式)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●第三回皇學館大学・三重大学合同シンポジウム	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座 1日・短期講習会(原文で読む「日本書紀」神代卷―天照大神と素戔鳴尊) 松本丘(文学部教授)	●共催講座(神道と仏教―国東半島における神仏習合と神仏分離)	河野訓(文学部教授)	●入寮式	●新入生登学日	31日	30日	26日	20日	19日	18日	●共催講座(古事記「上巻」を読む「日本書紀
-----	----	------------	----------------	-------------------------------	-----------	--------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	---------------	---------	---	---------------------------------------	------------	------------------------------	------------	-----	-----	------------	---------------	-------------------------------------	---------------	-------------	---------	---------------------------------------	--------------------	---------------------------	-----------------------------------	------------	---------	-------------	-----	------------	--	------------------	----------------------------	--------------	------	---------------	-------------------------------	------------------------------------	--------------	--------	---------	--------	---------------	--------------------------------	------------------------------	-----	-----	-------------------------------	---------------------------	------------	--------------------------------------	---------------	---------	---------------------------------------	--------------	-------------------	---	------------------------	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	--------------------------------	------------	------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----------------------

[illegible]

教学振興会 寄付者芳名

ご挨拶

学校法人皇學館 理事長 佐古 一 冽

平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。

さて、平成二十七年度的におきましても、多くの方々のご入会、ご支援をいただき、改めまして皆様方のご芳志に対し、重ねて厚く御礼申し上げます。

平成二十七年度的教学振興会支援事業は、学生・生徒への修学支援、国際交流活動として、海外留学や海外インターシップ、神職育成のための実習等の充実及び地域社会貢献活動として「伊勢志摩定住自立圏共生学」等に取り組みていただきます。

今後とも「教学振興会」への温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教学支援の概要

- 1 建学の精神を活かした研究活動の振興と教育の質の改善と保証
- 2 神宮並びに神道研究の情報拠点の形成
 - 神宮、神道に関する文献資料の収集整理
 - 神宮、神道研究の国際情報発信センター機能の整備
- 3 国際交流の推進と日本文化発信人材の育成
 - 学生・生徒の海外留学に対する助成
 - 国際交流協定大学等との交流事業に対する助成
 - 外国人留学生に対する奨学援助
- 4 地域社会貢献活動と伝統文化継承人材の育成
 - 学生・生徒の社会貢献活動に対する助成
 - 「伊勢志摩定住自立圏共生学」教育プログラムによる地域貢献人材の育成
 - 地域社会貢献組織の整備に対する助成
- 5 学生・生徒の修学支援
 - 学生・生徒に対する奨学援助
 - 学修（習奨励）や課外活動等への助成
- 6 その他学校法人皇學館の教学上の目的達成に必要なと認められる支援

平成27年度 教学振興会寄付金納入状況報告			
平成27年 4 月 1 日～28年 3 月31日			
区 分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗 教 界	282	40,440,000	38,610,000
企 業	31	1,660,000	1,580,000
館 友	325	3,570,000	3,030,000
専の会会員	401	2,950,000	2,500,000
高等学 校者	131	990,000	735,000
中保 学 校者	46	340,000	295,000
一 (篤志家等)	13	3,215,000	3,205,000
本法人関係	187	2,385,000	2,385,000
合 計	1,416	55,550,000	52,340,000

付者芳名			
学校法人皇學館 理事長 佐古 一 冽			
生徒への修学支 本学園への期待に添えるよう、鋭 として、海外留 意努力いたす所存でございます。 ンシップ、神職 ここに平成二十七年にご入会 等の充実及び地 いただきました皆様方の芳名及び して「伊勢志摩 寄付金納入状況を報告させてい 」等に取り組む たきます。 。 今後とも「教学振興会」への温 方のお力添えに かいご支援を賜りますよう心より 上げ、更なる お願い申し上げます。			
平成二十七年のご入会者芳名			
宗教界			
北海道			
北海道神社庁様 岩見沢神社様 北海道神宮様			
青森県			
岩木山神社様 諏訪神社様 高山稲荷神社様			
岩手県			
岩手県神社庁様 駒形神社様 盛岡八幡宮様			
宮城県			
金蛇水神社様 金華山黄金山神社様 志波彦神社鹽竈神社様 竹駒神社様 宮城縣護國神社様			
山形県			
出羽三山神社様			
福島県			
福島稲荷神社様			
茨城県			
茨城県護国神社様 酒列磯前神社様			
栃木県			
栃木県神社庁様			
埼玉県			
鷲宮神社様			
千葉県			
二宮神社様			
東京都			
神社本庁様 井草八幡宮様 東京大神宮様 東伏見稲荷神社様			
神奈川県			
鶴沼伏見稲荷神社様 瀬戸神社様 鶴岡八幡宮様			
新潟県			
白山神社様 彌彦神社様			
石川県			
日枝神社様			
尾山神社様			
福井県			
白山比咩神社様 氣比神宮様			
山梨県			
山梨県神社庁様 北口本宮富士浅間神社様 小室浅間神社様 浅間神社様 武田神社様			
長野県			
諏訪大社様 深志神社様 四柱神社様			
岐阜県			
崇教真光様			
静岡県			
伊古奈比咩命神社様 龍尾神社様 焼津神社様			
愛知県			
愛知県神社庁様 若宮八幡社様			
三重県			
神宮司庁様 北畠神社様 頭之宮四方神社様 猿田彦神社様			
滋賀県			
多賀大社様 日牟禮八幡宮様 貴船神社様 白峯神宮様			
京都府			
鎮西大社諏訪神社様 住吉神社様 昊天宮様			
長崎県			
祐徳稲荷神社様			
福岡県			
福岡県神社庁様 福岡縣護国神社様			
佐賀県			
祐徳稲荷神社様			
熊本県			
鎮西大社諏訪神社様 住吉神社様 昊天宮様 藤崎八幡宮様			
大分県			
大分県神社庁様 宇佐神宮様			
宮崎県			
宮崎県神社庁様 高千穂神社様			
鹿儿岛県			
射楯兵主神社様			
企業			
三重県			
伊勢外宮クリニック様 株式会社神路社様 株式会社トエネック 伊勢営業所様 富士ゼロックス三重 株式会社様 三重保安商事株式会社様			
大阪府			
近畿ニッポンレンタカー 株式会社様			
館友			
北海道			
佐々木 貴 教様			
青森県			
菅 田 稻太郎様			
茨城県			
山 内 清 視様			
富山県			
浦 泰 宏様			
福井県			
粕 谷 興 紀様			
岐阜県			
館友会 岐阜県支部様 田 口 豊 年様			
静岡県			
望 月 伸 夫様			
愛知県			
森 岡 正 視様			
三重県			
神宮 館友会様 市 川 満 郎様 井 戸 本 雅 様 小 串 芳 夫 様 川 口 浩 之 様 駒 田 親 史 様 駒 田 具 夫 様			
福岡県			
大江田 信 様			
滋賀県			
岡 田 裕 正 様 中 野 幸 彦 様 野 村 郁 雄 様 生 寫 經 和 様 磯 部 明 様 斉 田 真 様 中 西 和 之 様			
京都府			
館友会 大阪府支部様 足 立 博 史 様 高 林 正 浩 様 中 山 幸 彦 様 花 谷 幸 比 古 様 福 永 弘 様			
兵庫県			
池 田 通 徳 様 上 村 了 様 近 藤 公 博 様 三 木 通 貴 様 南 條 雅 哉 様 水 野 隆 司 様			
和歌山県			
江 尻 久 仁 子 様 江 尻 ひ で み 様			
広島県			
内 田 嘉 彰 様 森 脇 宗 彦 様			
山口県			
西 村 千 秋 様			
高知県			
松 永 信 彦 様			
福岡県			
大神 有 香 様 大神 良 彦 様 高 向 正 秀 様 花 田 秀 徳 様 久 田 松 和 則 様			
長崎県			
高 田 正 紹 様 高 羽 伸 浩 様 高 橋 伸 定 様 高 山 哲 典 様 中 原 正 美 様 西 北 道 代 様 西 田 了 様 服 部 憲 明 様 林 比 呂 志 様 羽 山 和 彦 様 原 淳 一 郎 様 東 端 弘 泰 様 藤 谷 幸 正 様 堀 池 孝 尚 様 堀 江 哲 史 様 松 田 雅 之 様 的 場 宏 様 水 本 邦 子 様 吉 村 麻 里 子 様			
国文学科			
宇 佐 美 太 志 様 牛 丸 圭 五 様 榎 本 幸 男 様 大 市 正 道 様 大 下 浩 様 小 川 伸 様 加 藤 浩 様 木 一 勝 之 様 金 一 貞 花 様 小 島 豪 様 竹 内 健 様 谷 口 優 子 様 中 川 晃 秀 様 中 前 耕 一 様 服 部 英 二 様 原 田 久 男 様			
個人情報保護に関する法律の施行に伴い、芳名の掲載をご希望されない 方々については、件数のみ掲載させていただきました。 ●宗教界1件 ●館友3名 ●萼の会会員38名 ●高等学校保護者18名 ●中学校保護者10名 ●一般6名 ●本法人関係64名			

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、芳名の掲載をご希望されない方々については、件数のみ掲載させていただきました。

- 宗教界 1 件 ●館友 3 名 ●専の会会員 38 名
- 高等学校保護者 18 名 ●中学校保護者 10 名 ●一般 6 名
- 本法人関係 64 名

赤塚信二様	ミニ ニ ケー ション 学科	渡邊俊洋様	米奥俊太郎様	水口佳己様	松原久広様	松下愛様	堀内竜彦様	藤田史子様	福井亨様	蓮見いずみ様	西山幸生様	新延瑞樹様	中野嘉人様	土屋宮崎ローサ様	辻幸治様	高林正浩様	高林環様	杉谷真由美様	小西昌子様	木村廣茂様	岸田由岐様	岸岡光次様	川島雅樹様	鎌田高行様	岡雅春様	大塚定成様	大島修様	内山博司様	上田公子様	植田えい子様	井村二郎様	国史学科	和田敏様	和田章様	山田里香様	森田敏哉様	松岡克樹様	古市徹様	平井照彦様
		平松竜夫様	早川弘昇様	畑野俊次様	新田圭介様	西丈範様	中西弘幸様	中西俊樹様	土屋宮崎ローサ様	辻本義成様	田畑拓夫様	谷口誠誠様	高木康司様	鈴木和則様	清水和弘様	笹ヶ瀬尚志様	齊藤謙太郎様	工藤雅司様	片岡健二様	奥田美和子様	岡村謙司様	今井善三様	天野孝則様	渥美正博様	教育学科	山本信彦様	濱喜一様	橋川輝彦様	中島武浩様	仲正文様	達武彦様		竹内成豊様	竹内成豊様	高田有治様	正井徳明様	塩崎昇様	薩摩善徳様	小橋浩樹様
木下保様	鬼頭かおり様	北山敏春様	勝山豊様	大井仁様	岩田定和様	井上伴大様	磯崎久直様	石井秀樹様	飯岡玉緒様	東和彦様	高等学校保護者	渡辺秀史様	山元正樹様	山本賢実様	堀江光司様	堀江光司様	中西和也様	谷川公浩様	鈴木良一様	城秀輝様	佐藤誠様	小林隆様	角谷学様	折戸利徳様		乙部祐子様	米川貴幸様	吉江朝明様	矢野淑実様	柳川博彦様	村井巧様	向井篤様	水谷祐輝様	萬好哲也様	松山（洪）在圭様	牧野保様	堀本篤様		
吉村竜太様	吉村友成様	吉田誠様	山本幸彦様	山本保久様	山中信正様	藪木剛彦様	森孝弘様	村林宏様	村上泰規様	三宅順子様		水谷太様	松村圭剛様	細川敦也様	長谷川成大様	橋本房佳様	野村卓秀様	西田篤司様	西田紀様	中村正央様	出口好昭様	田中民弥様	田中真如様	滝本武様	瀧本真司様	瀬古智秀様	世古津美様	鈴木浩之様	鈴木孝明様	鈴木一雄様	清水康博様	境幸穂様	小林孝久様	小林久様	小島裕治様	小島明様	小岸照生様	小出三絵様	桑原清志様



皇學館大学

教学振興会

新規ご入会のご案内

教学振興会は、皇學館大学、皇學館高等学校、皇學館中学校における教育研究活動、学生・生徒への修学支援活動、国際交流活動、地域社会貢献活動等への財政的支援を目的として設立し、年会費として毎年度一定額を寄付金として拠出していただき、学生・生徒の諸活動に活用させていただくものであります。

学校法人として、大幅な経費削減、業務合理化などの自助努力を進めておりますが、教育・研究の更なる維持発展のため、本学園を支持していただける方々をはじめ、広く皆様のご理解あるご支援をお願いするところでございます。趣旨ご理解のうえ、新規ご入会を心よりお待ちしております。

寄付金募集要項

●寄付金(年会費) 及び 寄付金に関する減免税措置

法人・団体員	年額 一口 20,000円
受配者指定寄付金制度 (寄付金全額を損金算入できる制度)	
個人会員	年額 一口 5,000円
所得控除制度、あるいは 税額控除制度	

出来すれば複数口のご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先
学校法人 皇 學 館 教学振興会事務局担当
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL0596-22-6313 FAX0596-27-1704
E-mail suishin@kogakkan-u.ac.jp



皇學館高等学校



皇學館中学校

中学校保護者	山本信彦様	一般(篤志家等)	三重県	滋賀県	神奈川県	本法人関係	学校法人皇學館教職員	伊藤朝子様	市田敏之様	板井正斉様	井関伸芳様	藤田一郎様	廣田幸則様	中川昌也様	下倉基彦様	小出三絵様	北岡英二様	尾崎一高様	臼杵力様	井上伸二様	浅野太穂様	浅井隆治様								
	伊東由美子様							奥山英樹様	奥野美佐緒様	奥知裕様	岡田芳幸様	岡田登様	岡田政紀様	大津政紀様	太田有香様	尾上誠一郎様	榎本悠孝様	梅川紗綾様	鶴沼憲晴様	内田悠一様	上野秀治様	岩崎正彌様	岩城壽美和様							
	小野通明様							鈴木晴美様	佐野真人様	佐々木英人様	櫻井さや様	小孫康平様	木下正治様	岸川政之様	河俣毅様	川西三喜子様	川島一晃様	加茂正典様	上小倉一志様	田條敦仁様	多田實道様	竹岡桃子様	関根薫様							
	鈴木幸枝様							渡部年晴様	渡邊賢二様	横井正典様	山本智子様	山路克文様	山口正雄様	山口建史様	山口克文様	山本智子様	守本友美様	毛利正守様	宮下州臣様	松本直之様	松浦光修様	榎野貴行様	前川幸生様							
	※芳名は区分ごとに五十音順で掲載しております。掲載は芳名のみとし、寄付金額を含むその他の個人情報掲載はしておりません。																													